鳥取の未来を創る仕事

建設業

鳥取県建設業協会

あらゆる土木・建築工事を行い、人々が安心して暮らせるまちづくりや社会基盤整備に関わる建設業。現場で体を動かす男性職場のイメージが強いが、建物の設計や現場の管理、資材の調達、仕事を受注するための営業など仕事の内容は多岐にわたり、近年は女性の進出も目立つ。一人前の技術者への育成に時間がかかり、技能・技術系の労働者不足が常態化する中、鳥取県建設業協会（山根敏樹会長）では、鳥取の未来を創る仕事に、若者をはじめ多様な人材の活用を進めている。

鳥取自動車道（鳥取市用瀬町）

夢を現実に 特別な一歩

高校生インターンシップ

工事現場に出て、ものづくりの大切さ、仕事の醍醐味を体感できる各企業のインターンシップは、専門知識を学ぶ学生・生徒が建設業を将来の職業としてイメージしていく上で貴重な機会だ。

高校生のキャリア教育の一環として、本年度は県内建設業30社が鳥取工業高、智頭農林高、倉吉農業高、米子工業高の2年生62人を受け入れた。

学校のOBらから指導を受け、より実践に近い形で現場を経験した生徒たちは、一回り大きくなったように見えた。

土木

太田　愛乃さん

米子工高2年　建設科土木コース
受け入れ企業：ティー・エム・エス（南部町）
18年10月23－25日

現場で入念に打ち合わせ

中学での職場体験を機に

中学生のとき、建設会社での職場体験を機に、測量士という仕事に憧れを抱いた。あれから3年。弓浜半島に整備中の自転車道の工事現場で、測量機器をのぞき込む自分がいる。

建設の仕事は、測量から始まるという。安全で確実な工事計画が立てられるよう、土地の高さ、形状などを正確に把握する作業だ。

早さと正確さが求められる中、なかなか納得いく結果が出ない。「学校でやるのとはかなり勝手が違った。一首をかしげながら、一つ一つ経験を重ねる。その積は真剣そのもの。

砂防堰堤の工事現場では、ドローンを飛ばし、上空から撮影した。こちらは「意外に操作できた」と新しい発見があった。

何事も経験。これから先、上達するか、しないかは努力次第。挑戦は始まったばかりだ。

米沢　響稀さん

鳥取工高2年　建設工学科・都市環境類型
受け入れ企業：やまこう建設（鳥取市）
18年9月3－7日

測量機器を握え付ける

自然豊かな街つくりたい

「自分たちで作った道路や橋などが地域の人たちの役に立つ、それが工木の仕事の魅力」。在学中に、測量士補、2級土木施工管理技士の学科試験の合格、小型車両系建設機械運転資格の取得に挑む。

鳥取西道路の建設現場などでレベル測量、光波測量などに取り組んだ。学校の実習でも測量は大好きしかし、どうしても言われた時間内（レベル30秒、光波3分）に測量機器を据え付けることができず、悔しい思いをした。

のり面を作るCT搭載の油圧ショベルなど、最先端技術が導入された現場を目の当たりにした。「将来は豊かな自然に包まれた街をつくってみたい」と夢を語る。

会社には女性社員も多く、安心できた。「雰囲気にもなじめ、土木の仕事がもっと好きになった」目指すは土木女子、決意は固い。

建築

岸本　竜侑君

鳥取工高2年　建設工学科・建築類型
受け入れ企業：大和建設（鳥取市）
18年9月3－7日

木造プレカット工場を見学

現場は感動の連続

木材加工、木材を使った建築に興味がある。そは、コンクリートの強度だけに鳥取市や智頭町の木造プレカット工場見学などが印象に残った。

「昔は大工の手作だったほうを作る作業を機械が担なう結果が出ない。「学校でやるのとはかなり勝手が違った。一首をかしげながら、一つ一つ経験を重ねる。その積は真剣そのもの。

砂防堰堤の工事現場では、ドローンを飛ばし、上空から撮影した。こちらは「意外に操作できた」と新しい発見があった。

何事も経験。これから先、上達するか、しないかは努力次第。挑戦は始まったばかりだ。

垰田　紘斗君

米子工高2年　建設科建築コース
受け入れ企業：美保テクノス（米子市）
18年10月23－25日

建設業界で働く先輩たちと意見交換

将来と向き合えた

境港と屋や鮮魚作業所の建設現場を回り、測量などの作業を体験し、建築の世界で生きていきたいと考える自らの将来と真剣に向き合う機会となった。

実際に現場で見る建物は、教科書の写真と違い立体的で、構造などへの理解が深まった。また、高所などでの作業も多く、作業の安全確保の大切さも痛感した。このため、冷静な判断力、行動力といった、将来目指す現場監督に求められる資質も自分なりに分析した。

最終日は若手社員と交流した。高校時代に勉強しておくべきこと、この会社を選んだ理由、やりがいなどを質問。「3日間を通じ、やはり建設業に進みたい」など同級生の決意表明もあり、刺激となった。

けんせつ小町対談

女性も働きやすい業界へ

本庄美佳さん（やすなが工事（鳥取市））× 阿部香織さん（大山緑化建設（大山町））

工事現場を管理する女性の土木施工管理技士として活躍する、本庄美佳さん（鳥取市・やすなが工事）と阿部香織さん（大山町・大山緑化建設）に、女性も働きやすい職場づくりへの思いなどを語ってもらった。

－女性の技術者が増えつつある。メリットは。

本庄　現場で地域住民とのコミュニケーションをとりやすくなると思う。

阿部　周辺住民対象の現場説明会などで相談しやすいと言ってもらえる。専門的なこともたずねやすいと。

本庄　会社にも女性を採用するメリットはあると思うし、同時に女性を複数採用できれば、互いの悩みを相談しながら、一緒に成長していけるのでは。

－女性管理職が増えていくには。

阿部　制服の見直しや女性用トイレ設置の義務付けなど、女性を物理的に優遇している間は、女性技術者の地位向上にはつながらないと思う。業界全体で働き方改革を進め、老若男女が健やかに働ける職場に変わっていくことが何より大事だ。

本庄　会社も「女性には無理」と決めわけず、男性と同じ土俵で同じように評価することが必要。頑張る女性には昇進できるチャンスを。

阿部　父親も子育てに参加する時代。建設業に従事する全ての技術者に休日が確保され、定時に退社できる仕組みづくりが求められる。

－建設業を目指す女性たちにメッセージを。

本庄　一つの現場をみんなで一緒に完成させていくことは本当にやりがいがある。現場が完成したときの満足感と自分の頑張りが認められたときのうれしさは格別。

阿部　四季の移ろいを肌で実感できる仕事。同じ工事は一つもないので、常に新しい気持ちで仕事に臨める。少しでも興味があれば、とにかく飛び込んでみてほしい。

本庄さん

無理と決めず同じ土俵で

阿部さん

「休日、定時」技術者全てに

やりがい1位は「後世に残ること」

建設業で働く鳥取県の若い技術者は、何をやりがいに頑張っているのか。鳥取県土木施工管理技士会の調査では、「建設したものが後世に残る」との回答が3分の1を占め、最も多かった。

若手技術者128人アンケート

建設業の仕事は「地図に残る仕事」と例えられる。今後の目標として「自分の家族に自慢できるものを造りたい」「公共工事に貢献し、暮らしやすい鳥取県にしたい」という意見も寄せられた。

また、魅力ある職場にするために必要だと思うことは、「賃金水準の向上」「労働時間の短縮」「先輩・後輩間のコミュニケーションを図る」などが上位だった。

調査は2017年度、魅力ある職場づくり、若年者の入職を促すため、県内40歳以下の技術者128人を対象に実施した。

安い掛金
手厚い補償（障害7級まで）
事業内容ますます充実

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。

育英奨学事業　被災者（死亡および障害・傷病3級以上）の子供に対して、要保育期間および小学校から大学までの在学期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。

労働安全衛生推進事業　① 安全衛生用品の頒布　② 女性専用トイレ導入費用に対する助成　③ 安全衛生推進者表彰　等

詳しい情報、掛金試算などのお問い合わせ

公益財団法人 建設業福祉共済団
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8（虎ノ門琴平タワー11階）
Tel:03-3591-8451
■取扱機関：（一社）鳥取県建設業協会
〒680-0022 鳥取市西町2-310 TEL:0857-24-2281
http://www.kyousaidan.or.jp/　建設共済保険